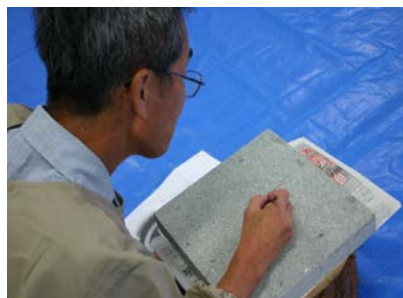


○福光石をほってみよう (7/26)

地元市民の参加者と、当センター職員約 10 名が、福光石加工を体験しました。

始まりにあたって、福光石は、この地元大田市の温泉津町福光で産出される凝灰岩（ぎょうかいがん）で、耐熱性や耐寒性に優れた特性を持っていること、また、軟質で加工しやすい石であることから、16 世紀後半から 17 世紀前半の石見銀山遺跡の最盛期には、多数の墓石に福光石が利用され、銀山の景観の一部になっていると説明を受け、実践に入りました。

約 30 センチ四方、厚さ約 5 センチの石板形に切りだされた表面に、カブトムシ、お地蔵さんなど自分で彫ってみたい題材を下書きし、その下書きに沿ってノミと金槌で丁寧にゆっくりとたたいて掘り進んで行きました。



【思い思いの題材を石に下書き】

時折、講師の坪内正史先生が彫り方のコツを助言、慣れないながらもレリーフを彫り仕上げました。



【ゆっくりゆっくり丁寧に】



【先生の助言で作業も彫りすすみます】



【完成？2時間ほどの作業で出来あがりました】